

いじめ・不登校・ひきこもり・ニート

奥地圭子『東京シューレ 子どもとつくる 20 年の物語』（東京シューレ出版、2005）

奥地圭子さんはどんな人かという、子どものことを一大事に思っている人だと思う。また、居場所をつくってあげたり、やりたいことを尊重してあげることや自己決定権を子どもに持たせてあげること、安心して暮らせる場所を与えてあげるといった子ども思いな奥地さんだと思う。社会問題として、いじめや不登校、自殺といった問題がある。この問題をなくすために東京シューレを創設しといったことが分かりました。そして、東京シューレで一番大切にしていることが5つあるということである。1つ目に子どもの居場所であること。2つ目に子どものやりたいことを大切にすること。3つ目に子どもの自己決定権を軸にすること（自由）。4つ目に子ども達で創っていく場であること（自治）。5つ目に子ども一人ひとりの違いを尊重すること。この5つを目標とし活動をはじめていったということである。

本文を読んで、東京シューレ創設からいろいろなことが上手くいかずになっていたが、子どものことを率先して考えて、どうしたらいじめや不登校がなくなるのかを常に考えていたんだということが分かった。時間は友達・子どもは安心できる環境で育つという言葉に関心を持った。自分や人を信じられなくなったり居場所がないといった子ども達に心に余裕を持たせてあげることによって時間が解決してくれることもある。そして、生きてて楽しくない、死んだ方がましだといったことをなくすために居場所を作ったり、楽しいと思える環境を与えることが子ども達にとって自由になれる時間だと思う。安心できる環境があると子ども達にとって余裕のある生活や自分の考えを持てるようになり、自己決定権も自分のなかで考えることもできる。奥地さんが考えていることは、いじめや不登校をなくしていくために子どもに自由を与える、そして束縛しない、させない環境をつくる、ここにいてもいいんだという居場所を創ろうとしているんだということである。(801)